

《巻頭言》

# 平成 29・30 年度 新体制

(一社)神奈川県建築士会会長 金子 修司

今年の梅雨入りは平年並みでしたが何となく定まらない不安定な天気が続きます、揺れ動く国内外の諸情勢を反映しているかのように感じられます。

この度、平成 29 年度通常総会で 2 期目の建築士会会長として選任され、更に 2 年間長としてのお役をお受けする事となりました。早いもので、建築士会の会長をお受けしてから 3 年目を迎えましたが、この間に見えてきた課題や解決すべき問題など多くの課題があります。

建築士会の抱える課題の根底には日本社会共通の問題である高齢化、人口減少、若年労働力の減少などがあり、さらには建築士会としての地域の特性、業務の領域から来る多くの問題が存在しております。

就任以来、県内の各部や委員会の集まり、イベントなどに出来るだけ参加して問題点を共有し、活性化への方向性等を模索して参りましたが、まだまだ道半ばであると痛感しております。これからも各地域支部、委員会の現況について、より良い方向性を探るために努力して参ります、是非ご意見等お聞かせください。

さて、現在の神奈川県建築士会の会員数は、本年度当初 2,830 人です。士会は熱心な会員諸氏の活動により今日までの歴史を重ねてきました、社会から必要とされる専門家である建築士として活躍される多くの会員の活動がその源です。県内の建築士の数は概ね 6 万人と言われていて、せめて 5% の 3,000 人の建築士が士会に入会することにより社会への発信力を高め、社会的プレゼンスを高めたいと考えております。

一方で、定年退職した、仕事を辞めた等

の理由で先輩会員が退会するケースも多くあります。建築士としての貴方の活躍の証として是非とも生涯にわたり建築士会の会員でいて頂きたいと考

えます。今年度はシニア活躍の新たなステージを用意しております。是非とも培ってこられたノウハウや知識を後輩たちへ伝えてください。

私たち建築士は専門家として倫理を守り、技術の研鑽を怠らず品位を保って業務を通じて地域社会への貢献を行います。士会の会員であることを誇りに思い、社会から信頼され、リスペクトされる立場にある素晴らしい専門家です。誇りを胸に一生の資格である建築士で建築士会の会員でいてくださることを願います。

さて、今年の関東甲信越建築士会ブロック会青年建築士協議会は神奈川の箱根を舞台に開催されます。6 月 22 日～24 日までおよそ 1 都 9 県から 600 人の若い建築士が集います。本誌 SALON84 号が皆さんのお手元に届くころはすでに開催後となりますが、私がこの原稿を作成している現在、青年委員会は準備の真っ最中です。大会の成功を願って熱意を込めて準備を進めてきた青年委員会の労をねぎらうために、箱根での大会が成功裏に進められる事を祈り、士会を挙げて応援したいと思っております。



平成 29 年度（一社）神奈川県建築士会通常総会は、平成 29 年 5 月 31 日（水）午後 2 時から、神奈川県建設会館 2 階講堂において、1,165 名（当日出席 85 名、委任状 1,080 名）の出席を得て開催されました。

本年度総会は、議長に内沼相模原支部長、議事録署名人に折笠理事、田中理事の 2 名が選任され、すべて原案通り承認されました。

金子会長は、冒頭において、「会員数の減少は他団体も同様で大きな課題となっている。しかし、専門的な分野の資格者がきちんと仕事をするのが社会から求められており、今後、建築士会は、ますます必要とされる資格団体になると信じている。会員数 3,000 人を目標とし、社会のために貢献する団体として皆さんと一緒に歩んでいきたい。」とあいさつをされました。



金子会長挨拶

任期満了に伴う役員改選では平成 29・30 年度の理事、監事が選任され、金子会長の再任の挨拶と新理事・監事の紹介がありました。



内沼支部長

平成 29 年度の事業計画では、重点事業として、シニア会員が活き活きと活動できるよう同好会活動と新たな事業の立ち上げ、定款目的の『公共の福祉の増進に寄与』等本会の公益的な役割を担うための事業として「相談事業の取り組み」、そして会員増強・退会抑制として「お試し会員」制度・新入会員紹介等の広報の強化や既存住宅インス



通常総会会場

ペクションなど既存会員のビジネスチャンス拡大などが挙げられています。

総会終了後の懇親会は、総務企画委員会の運営で開催され、昨年までと異なり、会場を建設会館隣りのメディアビジネスセンター1階「ハーバース・ダイニング」に移しての開催となりました。

司会は総務企画委員長の芝理事が勤め、神奈川県



庄司部長



坂和局長

県土整備局建築住宅部 庄司博之部長、横浜市建築局 坂和伸賢局長をはじめ、多くの来賓の方々にご臨席いただきました。

また、情報広報委員会が主催した本会の共通名刺デザインの公募の結果発表があり、金子会長から、入選作作者の雨森隆子さん(横浜支部)に賞状と記念品が授与されました。



入選デザイン作者の雨森さん

短い時間の中、多くの会員の方々の参加を得て、さまざまな意見交換が行われ

る中、盛会のうちに無事散会となりました。



懇親会会場

総会の詳細については「掲示板」総会特集号（平成 29 年 7 月発行）に掲載しておりますので、併せてご覧ください。

平成 29 年 5 月 31 日開催の平成 29 年度通常総会で新役員が決定致しました。新体制のスタートです。新たに役員に就任された皆様に自己紹介と今後の抱負を伺いました。



### 「新副会長としての抱負」

上原伸一

このたび、副会長を仰せつかりました上原です。これから 2 年間、よろしくお願いいたします。私自身は建築士の資格を取って 40 年経ちますが、この資格を礎に現在も設計業務に携わっています。この間、社会の変化、様々な事件、などで我々建築士を取り囲む環境が大きく変わってきましたが、境遇、経済状況は昔のままで、国家資格という重い責任を負いながら、社会の中では決して恵まれてきたとは言えず、リスペクトされる存在とは程遠い状況です。当会も永い間会員の減少が続き、様々な活動を行っているにも拘わらずなかなか思うような成果が上がっていません。しかし建築士という国家資格に建築士会という法定団体の社会に於ける存在価値は大きなものがあり、そこで育ってきた我々自身がこの資格並びに組織を大切に育てていく責務があると考えています。副会長として金子会長を支え、会員の皆様と一緒に一丸となり、新たな気持ちで様々なことに取り組み、魅力ある建築士会を作ることを目指していきたいと思います。

平成 29・30 年度の理事、監事をご紹介します。（敬称略）

#### ◆理事（会員外を含む）30 名

加藤 清（横須賀支部）	矢野 高（中支部）	櫻井 泰行（小田原地方支部）
金子 成司（川崎支部）	内沼 良和（相模原支部）	原 昌吾（県央支部）
佐藤 里紗（湘南支部）	渡邊 一郎（横浜支部）	塩川 圭一（県庁職域支部）
金子 修司（横浜支部）	村島 正章（県庁職域支部）	雨森 隆子（横浜支部）
小笠原 泉（横浜支部）	芝 京子（小田原支部）	浦 絵美（横須賀支部）
長瀬 光一（湘南支部）	玉野 直美（横浜支部）	東 二郎（県央支部）
長田 喜樹（県庁職域支部）	上原 伸一（川崎支部）	伊藤 誠一（県央支部）
有泉 ひとみ（相模原支部）	大川 友理枝（横浜支部）	内山 勝麗（横浜支部）
高橋 秀行（横浜支部）	山成 芳直（横浜支部）	村山 勉（川崎支部）
吉川 卓也（中支部）	土井 幹夫（中支部）	須藤 亮二（会員外）

#### ◆監事（会員外監事を含む）4 名

小渡 佳代子（横浜支部）	長井 邦夫（横浜支部）	小川 嘉一（県庁職域支部）
金沢 晴男（会員外）		

平成 29 年度通常総会 スタート！

SALON 84 号は、5 月 31 日（水）に神奈川県建設会館 2 階講堂において開催された（一社）神奈川県建築士会・平成 29 年度通常総会を特集します。通常総会の詳細は、別添の総会特集号に譲ることにし、本誌では新たに平成 29-30 年度の理事・監事となられた方々の紹介や、各支部の総会を報告するとともに、新たな編集企画として、本会の新会員となられた方々のご紹介をいたします。本号は、第 357 回（3 月 22 日）及び第 358 回（5 月 17 日）理事会で承認されました新会員の方々を掲載しました。なお、新会員の方々のご紹介については今後とも本誌に掲載してまいります。

理事（県庁職域支部）

塩川 圭一



県庁職域支部副支部長の塩川です。県庁職域支部では、庄司博之支部長（建築住宅部長）が県の建築行政全般を総括する為、支部選出の理事は、副支部長が務めさせて頂くこととなりました。建築士会への入会を呼びかける際、若手職員から「入会するメリットが感じられない」との声を耳にしますが、「設計、施工、教育、行政など、専門分野を異にする建築士相互の交流ができることが最大のメリットである」と説きながら、支部活動の活性化にも努めてまいりたいと考えています。今年の支部総会は、支部設立 60 周年記念の集いを兼ね、盛大に挙行致しました。今後とも、よろしくお願い致します。

理事（湘南支部）

佐藤 里紗



この度、湘南支部第 19 代支部長をお引き受けすることになりました。支部総会にて皆様からご承認いただき、2 年間のお役目がスタートしました。魅力あ

総会報告&新役員紹介

る建築士会をめぐり、例年通りの活動を始め、建築力を入れたいと思います。また他支部との連携、本部委員会との人材交流等、ネットワーク作りにも取り組みます。皆様のご協力をいただきながら進めて参りますのでどうぞよろしくお願い致します。

理事（県央支部）

原 昌吾



前期（H27・28 年）支部長でありましたので、本来なら本会理事に就かなければならなかったのですが、支部活動に足元を置き、活動したいと感じ本会理事は他の方に担当していただきましたが、今期は務めさせていただきたいと思います。本会理事は士会活動の業務決定機関であります。支部会員の声を本会に、本会の意向を支部会員に伝え、多くの会員がスキルアップに、会員交流が深める事になります様、頑張りたいと感じております。

理事（中支部）

矢野 高



この度、8 代目中支部長を拝命いたしました矢野 高と申します。神奈川県建築士会に入り 25 年、活動は CPD 制度推進運営特別委員会（現 CPD・専攻建築士制度委員会）に派遣されスタートし、支部の役員になり、以後「ナナメ塾」の塾頭も務めさせて頂くなど、出会いに恵まれ、今日まで仕事に就くことができました。改めてこの場をお借りし御礼申し上げます。今後もつながりと中支部らしさを大切に、支部役員の皆様、支部の皆様と歩んでいきたいと思ひます。どうぞ指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

理事（中支部）

土井 幹夫





理事（横浜支部）

内山 勝麗

4,5 年前に理事として教育講習委員会にて活動していましたが、ある年齢以上は理事の立候補不可との決まりにより立候補できなかったが、2 年前の総会にて、年齢による制限はおかしいとの意見より、本年度より撤廃され、立候補したが選挙による選出ならず、会長推薦により理事として活動することになりました。この 2 年間シニア担当理事として、シニア会員の活性化、（シニア会員の交流、シニア会員の若者への技術・知識の伝達 等）を念頭に、シニアの健康維持のためにも、種々の計画を企画し、実行し建築士会として、対県民・市民にもアピールできるものを作ってゆきたいと思っているので会員諸氏のご協力をお願いします。



理事（中支部）

吉川 卓也

この度、中支部より理事候補に推薦され、その大役を仰せつかる事となりました。理事として責任の重さを痛感し、大変恐縮しておりますが、皆様のお励ましを胸に、誠心誠意努めさせていただきます。この春、自身の職場環境が変わった事も重なり、建築士会とのかわりを更に深め、会の活動活性化や発展に、心機一転貢献出来れば幸いです。



委員長（福利厚生委員会）

比護 友一

今年度より福利厚生委員会の委員長になりました。所属する横須賀支部では会計委員長を務めていて、仕事は建設業を営んでいます。「福利厚生」と一言で表すと表現ができる幅はとても広く、言い方によっては何にでも対応出来てしまいます。考えれば考えるほど難しくなってしまう自分に委員長が務まるのかとも考えました。でも、2 年間勤めた委員会の経験を生かし、建築士会の皆様が少しでもホッとできる場所を提供できる、素敵なお仲間と出会える場を創っていった

らと思っています。これからは全員が参加できる公益性のある事業を展開していきたいと思っていますので、会員皆様のご理解とご協力をお願い致します。



監事（横浜支部）

長井 邦夫

横浜支部が発足する機に入会しましたので、早くも 23 年が経過しました。この度、監事に就任させていただきますが、会の発展の為に、微力ながら尽力したいと考えます。さて、近年、会員数の減少傾向が取り沙汰され、予算的にも支障を余儀なくされつつあります。会員同士、培った経験と知恵を振絞り、活力ある会を邁進させて行きたいものです。



監事（県庁職域支部）

小川 嘉一

光陰矢のごとし。神奈川県建築士会に入会して 30 年余が経過しました。この間、バブル景気、経済不況、地震災害、耐震偽装、環境問題など、目まぐるしく変化する時代背景の中、県の建築士が関わる、営繕工事、建築行政、住宅行政、まちづくりにおいて、様々な対応が求められてきました。そうした社会的要請に対しても、士会会員の皆様のご支援、ご協力を賜りながら、的確に対応することができました。今後も個々の感度を磨きつつ、積極的に事業展開していくことが私たち会員の使命であると感じており、監事という立場で活動に参画させていただくことになりました。よろしくお願いたします。

\*\*\*\*\*

（一社）神奈川県建築士会の会員数

（平成 29 年 4 月 1 日現在）

正会員	2, 7 5 7
準会員	9
協賛会員	5 3
特別会員	1 1
合計	2, 8 3 0

（単位：人）

# 支部総会特集

本年 5 月、神奈川県建築士会の 9 支部では次々に総会が開催され、SALON にも各支部の総会の様子が寄稿されました。各支部の活動への意気込みや抱える課題など、支部活動参加の参考にしてみたいかがでしょう。

## 横須賀支部

### 支部長再任へ

鈴木 玲成

5 月 19 日金曜日、建築士会横須賀支部の通常総会が例年同様にヴェルグよこすかにて開催されました。

総会は、高戸総務副委員長が支部長指名により議長を務め、各議案が承認されました。



本年度は、平成 29・30 年度幹事改選の年のため新幹事が承認され、加藤支部長の再任が決まりました。再任が決まりました加藤支部長は、「私が入会したころは会員数約 300 名いたが、現在 168 名となってしまっている。新しい副支部長 2 人には会員増についても頑張ってもらいたい」と抱負を述べられました。

総会後の懇親会では、吉田横須賀市長、渡辺本会副会長らにもご出席いただき、横須賀支部の活動へのお言葉をいただきました。

また、支部長の抱負である会員増の第一歩として新会員の紹介もありました。懇親会にて (下)



その後の懇親会第二部では場所を移動したにもかかわらず多数のご出席をいただき、終始和やかな雰囲気の中参加者の懇親を深めることができました。

## 中支部

### 畳の講習会と総会

田中 敦史

平成 29 年度中支部通常総会が 5 月 20 日に開催されました。当日は総会に先立ち「畳のこと、ホントに知ってます？」と銘打った講習会を、平塚で長年畳店を営む清田畳店の作業場にて行いました。同畳店の職人でもあり、また株式会社 RUSH ART の社長でもある建築士の清田道弘氏から国産畳の現状や様々な問題点、国産製品の優位性、さらに品質管理体制の構築の説明を受けた後、畳表の貼り替えの実演も行って頂くなど、大変興味深くまた私たち建築の専門家でも知らなかった事を知る良い機会となりました。講習会(下)



講習会終了後は会場を移動し、いよいよ総会となります。役員改選となる今年度で勇退される澤田支部長の挨拶は長年支部を支えてくださった重圧からようやく解放され、少しホッとした表情に見えたように思います。本当にお疲れ様でした。

来賓には本会の長田副会長にお越しいただき、17 名の方にご参加いただきました。新支部長となる矢野さん、新役員となる滝口さんを迎えた新しい中支部がここから始まります。総会のように (下)



総会後は近くの会場での懇親会が行われ、中支部らしい楽しく、賑やかで楽しい時間を過ごしました。

## 県央支部

### 講習会と支部総会

小幡 剛志

平成29年5月19日（金）に、県央支部の通常総会が行われました。会場はオークラフロンティアホテル海老名です。今回は総会前に、大和市役所街づくり計画部建築指導課による、「建築物省エネ法の概要」の講習会を行いました。省エネ法が建築確認手続きに連動していき、これからも目まぐるしく変わっていく法律であるので、質問も多く、会員の皆様の業務に非常に役に立つ講習だったのではないのでしょうか。

その後、県央支部通常総会が行われ、来賓には長田副会長をお迎えし、16名が参加しました。役員の変更の年で、原支部長が再任し、長年事務局として支部活動に尽力していただいた、大島、田尻の両幹事が役員



を退き、新たに青年委員会に所属している吉岡さんが幹事に加わりました。また総会に新入会員2名が参加していただくなど、世代交代が着実に進んでいるように感じました。

総会後は、同会場で懇親会が行われました。

恒例となりつつある、参加者全員の自己紹介の際には、個性溢れる自己アピールができ、終始和やかな雰囲気、懇親を深めることができました。



## 湘南支部

### はじめて物語誕生

春日 勇

鎌倉・藤沢・茅ヶ崎・寒川の会員で構成されている湘南支部は5月19日（金）に第44回通常総会を無事終了し、佐藤新支部長のもと平成29年度が始動しました。県内では初の女性リーダーだと聞いており、湘南に初めて物語が追加されて、これもうれしい限りです。例年心配している総会出席者数も、今年は委任状を含め88名の方にご協力いただき、定数55名の心配をすることなく順調に総会の当日を迎え、議事も無事承認されて胸を撫でおろしています。

支部が目指している「市民とともにある建築士」企画も、地域の活動に積極的に参加している新支部長はまさに適任で、これからの2年に大いに期待するところです。新年度事業は、6月の中支部と一緒に「二宮の魅力探訪」に始まり、関ブロ箱根大会、次に「地引網大会」と行事は既に動き出しています。特に7月8日の地引網大会は、昨年は荒天で初めて全面中止になり、とても残念な思いをしました。今年はぜひ青空の下で気持ちよい海辺のひと時を過ごせるようお祈りしています。

支部の今年の事業計画は、見出しこそ例年と大きく変わりませんが、事業の多くが具体化しているのが大きな特徴です。また役員の変更に伴い若い会員に役員会に参加して頂くようお願いし、気の早い話ですが次に繋げる準備も進めています。

会員数約280人は本会会員の1割になります。全支部の中でも数的には上位の支部になっています。県内でも人気のある地域を持っているので、今後これを生かした企画もあると思います。他支部の皆さんや会員以外の方との交流も深めて、建築士会の存在が認識



されることを祈念しています。2年間ご協力本当に感謝致します。ありがとうございました。（前支部長）

# 支部総会特集

## 横浜支部

### 総会と講演会

鈴木由紀子

5月20日、ワークピア横浜にて第24回通常総会が開かれ、講演会に90名、総会に49名、懇親会に46名の出席で盛会裏に終了しました。

★★★★★

90分間で400枚の写真を紹介しながらの講演は凝縮された内容でした。サブタイトルに“IN-BETWEEN”とあるように、日本と西洋、弥生と縄文、自然と建築、あらゆる角度、歴史的観点から建築の可能性のご説明がありました。そして有名な建築家、アーティストの事も盛りだくさんに聞いてとても有意義な時間でした。

丹下健三・都市・建築設計・研究所時代の建物の紹介は日頃良く目にする建物もあり、興味深く、印象に残りました。旧赤坂プリンスホテルの全て角部屋の設計の話、横浜美術館の外壁デザインは他の方がやられて、あまり好きでない話等。私は横浜美術館の外壁は丹下さんのカラーとちょっと違うと感じていたので、「やっぱり」と心のなかで思いました。中でも特に興味を持った話は、東京都庁舎の外壁デザインは大阪の民家の天井伏図を使ったという事。私は以前から、都庁舎の外壁デザインは普通と違うと思っていたので謎が解けました。この講演会でしか聞けない話を聞いたことは、とても収穫になりました。

「日本的なるもの」の説明に桂離宮の写真集を複数紹介してくださいました。同じ場所でトリミングのやり方を変えた写真を比較して、見え方、感じ方がどう変わるか、という事が伝わりました。



講演する堀越氏

吉田五十八さんが和室とダイニングルーム、座った時の視線の高さを同じにするように、和室を小上りにすることを設計された話は、「そうだったのか」と感じました。以前私も提案したことがありますし、雑誌等にもたまに見るので。

札幌モエレ沼公園はそのうち行ってみたい所でしたので、その設計の話も聞けて、いっそう行く楽しみが膨らみました。イサム・ノグチさんの事も聞けたのも収穫です。この講演を聞いた後、街中を歩く時、“IN-BETWEEN”を意識するようになり、また建物を写真に撮る時のフレームを気にするようになりました。設計者は建築を設計する時にはその建築が存在することで変わる景色、空気感が大事な事だと改めて感じる事ができました。

## 県庁職域支部

### 設立60周年記念の集い

支部長 庄司 博之

昭和31年に県庁職域支部が設立され、昨年60年を迎えましたので、遅まきながら、今年5月17日に「設立60周年記念の集い」を開催しました。当日は、本会から金子会長、また、6月の関ブロ箱根大会の実行委員を務める青年委員会からもご参加いただくとともに、歴代の支部長を務められた方々にも多数ご出席していただき、盛大に執り行われました。また、これを記念して、「支部だより(60周年記念号)」の発行と、記念品として60周年の記名入りのボールペンを作成し、お披露目させていただきました。

さて、県庁職域支部は、神奈川県、神奈川県住宅供給公社、(一社)かながわ土地建物保全協会に在籍して

いる者及びそのOB、



支部だよりの表紙



## 支部総会特集

約 130 名から構成される支部です。県内にある 9 支部のうち、横須賀、中、小田原の各支部に続き 4 番目に設立された支部ですが、一般的な地域支部と異なる職域支部ということで、その存在に注目が集まることも多く、日頃どのような活動を行っているのか、わかりにくいという声も聞かれます。そこで、日頃からホームページ等を通じた情報発信に努めるとともに、委員会や活動交流会への参加を通じて、県内の建築士の方々と情報交換、交流を図っています。最後に、県庁職域支部 60 年の伝統を次の世代にしっかりと引き継いでいくためにも、また、建築士会全体の発展に貢献できるようにするためにも、支部の活動をさらに充実させていきたいと思えます。



懇親会にて

### 相模原支部 総会と懇親会

山口 義弘

平成 29 年 5 月 23 日（火）午後 3 時 30 分より、相模原支部の定期総会が行われました。会場は、昨年と同じ、相模原市中央区にあります「プロミティふちのべ」でした。JR 淵野辺駅から徒歩 5 分程度の便利な場所です。淵野辺駅は、箱根駅伝「3 連覇」をしている青山学院大学の陸上競技部などがある相模原キャンパスの最寄駅でもあります



【最寄駅：JR 淵野辺駅】 【会場：プロミティふちのべ】



金子修司会長

総会は、来賓に一般社団法人 神奈川県建築士会の会長 金子修司氏をお迎えし、相模原支部会員は 15 名参加して行われました。



総会のようす

また、総会後に、青年委員会より伊藤 誠一（次期）青年委員長がご来場になり、今年度にかかれる関東甲信越建築士ブロック会「かながわ箱根大会」の PR が行われました。



青年委員会、伊藤誠一氏による関ブロ PR

総会終了後は、会場を移動し、懇親会が行われました。神奈川県建築士事務所協会相模原支部長の佐藤眞吾氏、相模原市設計協同組合理事長の西倉哲夫氏もお祝いに駆けつけて下さいました。終始和やかな雰囲気の中、出席者の懇親を深めることができました。

# 支部総会特集

## 川崎支部

### 総会と講演会

富澤 雄史

川崎支部第55回通常総会が平成29年5月18日(木)川崎フロンティアビルにて開催された。第一部では昨年同様に村松副支部長の司会進行の下、金子支部長が議長として昨年度及び今年度の会務・事業報告と昨年度の会計報告、今年度予算について滞りなく説明が進み承認されました。また、今年度は役員改選の時期となり、役員選考委員により協議され、現役員候補者14名と新役員候補者8名が選出され、合わせて承認されました。私は今年度から川崎支部の役員として参加することとなります。

第二部は「ル・コルビュジェ世界遺産」と題し、講演者として東京理科大学理工学部建築学科教授、山名善之氏をお招きし、ご講演いただきました。山名先生はフランス留学時から現在まで、文化遺産分野でご活躍されています。ル・コルビュジェ設計で東京初の世界文化遺産に登録された国立西洋美術館の登録に至る経緯について、詳しく解説頂きました。山名先生はこれまで世界文化遺産への登録に、近代建築が登録された事例が無い中で、ル・コルビュジェ設計の17作品(世界7ヶ国)について、ル・コルビュジェの建築に対する理論と合わせることで、世界文化遺産への登録にご尽力、貢献されました。山名先生の講演により、ル・コルビュジェの建築作品だけでなく、設計に至る背景、理念について見つめ直す機会となりました。

第三部の懇親会は、隣室に会場を移し、ご来賓の方々、新旧役員と交流を深める場となりました。

私にとって今回の総会・懇親会は、今年度から新役員としてスタートする場となり、身の引き締まる思いとなりましたが、それにも増して、役員となることで広

がる交流に期待しています。



第二部  
講演会のようす

## 小田原地方支部

### 総会と講演会と親睦会

田旗 正啓

小田原地方支部平成29年度通常総会が平成29年5月13日(土)おだわら市民センターUMECO会議室7で開催されました。総会は猪股正雄支部長を議長とし出席者28名で進行されました。昨年度の事業・会計報告、本年度の予算・他支部との見学会、秋のバス旅行、「塗料・塗装」の勉強会、木造住宅の省エネルギー計算の勉強会、一級建築士試験監督員の派遣、「木造耐震診断及び改修工事業務委託」「訪問簡易耐震診断」「市民のための木造耐震セミナー」等の事業が承認されました。そして、新役員として、石田博英氏が参加する事に成りました。

長田喜樹副会長にご祝辞を頂き、奈良直史青年委員長より、かながわ箱根関東ブロック大会への協力の案内を頂きました。



総会の様子

講演会は、救えますか…大切な人「心肺蘇生法とAEDの使用法」と題して、小田原市消防職員協議会会長 川久保昌彦様以下4名の皆様による救急救命の体験を交えた講義でした。要救助者のAEDを使用した救命体験が出来、近くの人との協力を借り、少しでも早く冷静な救急救命の大切さを知る事が出来る良い講演でした。

そして、親睦会は「八起」にて、会員の皆様、お互いに、情報交換、親睦を深める事が出来ました。



講演会の様子

本年度も多くの皆様の支部活動への参加をよろしくお願い申し上げます。

関東甲信越建築士会ブロック会  
平成 28 年度優良建築物表彰 受賞  
横浜支部 鈴木 信弘 氏

平成 29 年度通常総会の開催に先立ち、関東甲信越建築士会ブロック会平成 28 年度優良建築物表彰伝達式が行われました。ここでは、受賞者 鈴木 信弘さんのプロフィールと受賞作品をご紹介します。



■プロフィール

- 1963 年 神奈川県生まれ
- 1988 年 神奈川大学大学院修了
- 1988 年 東京工業大学 助手 (-1997)
- 1994 年 鈴木アトリエ開設

《受賞歴》

- 2005 年 第 50 回神奈川建築コンクール奨励賞
- 2015 年 ウッドデザイン賞 (林野庁)
- 2015 年 第 60 回神奈川建築コンクール  
アピール賞「環境」

■作品紹介

「神奈川大学横浜キャンパス国際センター」

国際交流の拠点には「木に包まれた柔らかい空間」がふさわしいと考えました。留学生を含む大学院生らと一緒にスタディを重ねた結果、準防火地域において「木の肌を生のまま現す木造建築」を目指すこと、そしてシンプルで展開の自由度が高い構造システムを考えること。この2つが都市部における木造建築に対するイメージを大きく変え、木質構造の普及性を高めることにつながるものだという意識を持ちました。国産材資源の有効利用から間伐による小径木を貼り合わせて、全体の大きな構造体を形成していますが、約 3mm 厚の小さなピースの視覚的な効果もあり、針葉樹の森に迷い込んだような新鮮な体験が楽しい空間です。



## 森を育む ～ 育樹祭への参加

横浜支部 技術・情報委員会 内藤 能里子

2016年11月6日曜日、神奈川県建築士会横浜支部 技術・情報委員会の企画による湘南国際村「めぐりの森」育樹祭イベントに参加してきました。このイベントは、協働参加型めぐりの森づくり推進会議混植・密植グループが主催するもので、2010年から続けられている森林再生活動のひとつです。湘南国際村は、国際会議場や宿泊施設、大学院大学、企業研修施設、居住地域とエリア分けされています。しかし、開発後に手つかずのエリアが大きく、その場所は緑の再生・保全と自然環境を生かしたエリアとして森を育成する事業に使われています。

私はランドスケープデザインの仕事をしていますが、樹木材料検査で行く場所は樹木を育てている圃場なので、今回のように山の中で森を作るために様々な種類の樹木を植栽して維持管理している場所へ来るのは初めてでとても楽しみでした。



イベントには多くの方が参加していました。自然環境への意識の高い企業や団体から親子連れで参加する方など様々でした。イベントでは、夏の間伸びた雑草の除去が主な活動だったので、初めに植えられている樹種の説明と雑草の違いを教えてください作業が始まりました。グループごとに区間を決めて5mほどの範囲の雑草を除去するのですが、これが結構な重労働。樹木は3年ほど経って1m以上の背

丈になっていますが、その周りを私の背丈より高い2m近いセイタカアワダチソウが取り囲むように伸び、幹の太さも親指よりも太いようなものが沢山育っていました。全身の力を込めて抜くようにしないと、根から除去することが出来ません。根が残ってしまうと雑草は伸びていた時以上に栄養を欲するので、植樹した樹木に栄養が行かなくなります。そのため、5mの距離とは言えとても大変な作業でした。でも、終わった時の達成感は素晴らしいもので、1時間ほどの除草作業の後、樹木がすっきり見えるようになり、樹木にしっかりと陽も当たるようになりました。



イベントで行われている多種類の苗を密植・混植させて自然の成り行きに任せて競争・共存させる方法は植物生態学者である宮脇昭さんによる手法で、徹底した現場の調査とその土地に自生し最も安定して存続する樹種群（潜在自然植生）を生かしたものになります。近年、地球規模の森林破壊や地球温暖化が急速に進み、大きな災害が起こるようになってきました。自分も含め、このような活動に少しでも目を向ける人が増え、なぜこのような自然環境、生活環境になっているのかを意識して仕事に繋げて行きたいです。建築行為は人間中心になりますが、その中でも地球に負荷をかけないようにすることが、これからの自然環境、生活環境がどのように発展していくのかと深く関わってくると思います。

自然に対して畏敬の念を持って日々接して行きたいと思います。

## ◆委員長から一言◆

(村島 正章)

先日の総会で引き続き理事に選任されました。これまで以上に広い視野をもって、会員のための士会運営、委員会・部会活動の充実に努めていきたいと思えます。

## ■福祉部会

(熊澤 徹)

4月8日に開催した体験型研修会に御参加頂いた、川崎支部長の金子様より下記の感想文をご寄稿頂きました。川崎支部にも御協力頂き、予定人数を超える方々に御参加頂き、大変有意義な研修会となりました。

(金子成司)

平成29年4月8日、開花が遅れた桜が満開になる中、技術支援委員会福祉部会主催の『セラピスト視点から学ぶ、住環境整備のヒント』はサブタイトル、～障がいと福祉機器のバリエーションについて考える～と命名さて、小田急線百合丘駅 川崎市北部リハビリテーションセンター内 百合丘障害者センターの施設を初めてお借りした研修会を実施いたしました。



この研修会は、座学からはじまり実際に補助器具を体験でき、時には介護される側で補助器に吊られたり、時には介助者になって車いすを押したりする側に回れるもので、実際の器具を用いて使用する側、使用される側の気持ちになって参加者も体験できる、貴重な研修会となりました。例えば、昇降リフト

に乗って自分で操作したり、最新の可搬型階段昇降機に載って車いすごと階段を上ったり下ったり、電動車いすに乗ってUターン。最新の補助器具を身近に、そして地域支部の皆さんとも共通認識できる和気藹々の研修会となりました。

半身まひを想定された浴室改修想定の間では、片腕片脚を縛られ不自由な状態での体験となりました。利用者が、何が不便なのかどこに何がほしいのか理解できる機会も頂くことができました。このような研修会を通して、私たち建築士も利用者の視点をより理解する必要があり、再確認できる研修会となりました。



## ■建築環境部会

(小島健一)

### 「気候風土適応住宅」 勉強会立ち上げ

「建築士」2016年11月号の特集にありました、「気候風土に根ざした木造建築の継承」では、多方面の方から貴重なご意見が多数寄せられておりました。

現在、建築環境部会主催で2015年7月11日に開催しました「建築物省エネ法案についての講習会」以降「建築物省エネ法」が今年2017年4月より施行され、この法律により、2,000㎡以上の非住宅の建築物は省エネ基準に対して、適合義務化になりました。

今後は2020年に向けて2,000㎡以下の建築物・住宅などに対しても適合義務化が予定されています。

その際、特集「気候風土に根ざした木造建築の継承」の中の記事「気候風土適応住宅」の認定制度導入の背景（福井武夫氏著：国土交通省住宅局住宅生産課建築環境企画室企画専官）にあるように、所管行政庁による「気候風土適応住宅」の認定（省エネ基準の緩和）が位置付けられています。

「気候風土適応住宅」とは、認定ガイドラインが特集記事にありますように、2016年3月31日に国土交通省より通知が出ており、それに基づき、所管行政庁が今後2020年に向けて、独自に認定指針を作成することになります。今のところ所管行政庁においては、その認定指針作成はまだ本格的に進んでいない状態です。

そのような状況の中で、「気候風土適応住宅」認定について、建築士会の中でどのような認定指針が良いのかを各都道府県の建築士会において考え、提案していこうとの動きがあります。その動きの中で、建築環境部会では、木造塾部会さんと一緒に、神奈川県における「気候風土適応住宅」の勉強会を立ち上げまして、5月12日に第1回目の勉強会を開催。勉強会の中では、木造伝統技術の再評価の必要性、特に木造伝統工法の住宅の住み方を含めた、省エネ（蓄熱）性能の評価の必要性などの話がありました。また、この機会に神奈川県内における、伝統工法的な家の年間着工数や、かかわる職人さんの現状なども調査、聞き取りをしていく予定です。

次回、第2回勉強会は7月14日（金）17時より建築士会会議室にて開催します。伝統工法や省エネ基準等に関心のある方は、ぜひ、出席の上、ご意見をお願いします。建築士会に連絡の上、参加をお待ちしています。



## ◆3M カスタマーテクニカルセンター見学

安藤めぐみ

5月9日(火)女性委員会主催による、「3M ジャパンカスタマーテクニカルセンター」の見学会が開催されました。3M 相模原事業所内に設置されている本センター内では、我々の生活に溶け込んでいる多くの分野で利用されている「3M テクノロジー」と「3M製品群の紹介」が行われています。

今回は建築士会女性委員会という目線から、主に建築の分野に特化した製品についてご紹介をいただきました。

当日は大人 15 名に加え、1 名幼児が参加いたしました。これは、子育て中のママ建築士の方にも見学会の参加が可能であるかを模索する試みで、手応えは十分にありました。それには見学会場の協力も必要だという事を実感いたしました。今回 3M のご担当者様のご理解には感謝申し上げます。

3M の会社案内を経て 2 班に分かれた後、3M テクノロジーと製品群の紹介をいただきました。身の回りのありとあらゆるアイテムに 3M 製品が使用され、またそれぞれの開発秘話などをお聞きし、製品一つ一つに思い入れがあることを知りました。

中でも、宇宙空間に放たれるベンチマークとなるターゲットマーカーというお手玉のようなボールについては驚かされました。地球から遥か離れた場所で探査機自身と目標の位置を正しく認識するため着陸予定地から合図を送るためのマーカーなのですが、それは反射板の応用となっていて、自ら光るのではなく光の反射を利用して位置を知らせるという全くのフリーエネルギーのアイテムだったのです。

その他、本棚の棚板手前に貼るだけで、地震の際に本が飛び出してこないテープの紹介など、宇宙から身近な本棚までのスケールの振り幅に翻弄され惹きつけられてしまいました。

休憩の後、ウィンドウフィルム製品の紹介のためガラス破壊実験室に移動し、赤外線を通さないフィルムについての温度差の体感や、層間変形や衝撃によるガラスの割れ方がフィルムの有り無しでどのように異なるのかを体験しました。

特に層間変形による割れ方の違いが私にとっては意外なものでした。

じわじわと平行四辺形にゆがむガラスにはミシミシとヒビが入るのではなく、許容応力を超えた時点で瞬時にガシャンと大きな音をたてて割れるのです。フィルムを貼っているガラスも同様割れるのですが、

流石に破片が周囲に飛び散らずその場にとどまっているため、ガラスの付近にいたとしても避難できることが想像されます。

## 層間変位試験

地震の揺れによるガラスの割れを想定

Filmなし

Filmあり



ガラスはほとんど落下

ガラスは落下せず  
フレーム内にとどまっている

地震時大きく揺れている間に突然大きな音でガラスが割れることを想像してみますと、既存単板ガラスなどはフィルム貼りでの改修についても安全に性能が発揮されることを理解する事が出来ました。

その後、おなじみのダイノックフィルムの製品の紹介や、建築設計者として逆に提案できることがあるか、などのディスカッションに移りました。製品開発担当の方がいらっしゃって熱心にメモを取っていただく姿にまた 3M が何か新しい技術を開発されるのだという期待感が膨らみました。

午後いっぱいを利用するスケジュールではありませんが、幼児大人とも集中が途切れることもなく、あっという間の見学会となり、今後の設計業務に活かしていけると実感いたしました。

メーカーの工場見学は平日の設定が基本となると思いますが、ママ建築士の方など、お子様をお連れになっても参加できる会を開催してきたいと思いますので、今後ぜひ参加されてみてください。

